鶴見区区政会議 平成27年度保健福祉部会

1 日時

平成27年11月2日（月） 19時00分～

2 場所

鶴見区役所 4階 403・404会議室

3 出席者

（委員）

久木部会長、早野副部会長、笹原委員、佐藤委員、田中（潔）委員、正脇委員

（区役所）

萩副区長、嶋原保健福祉課長、貴志生活支援担当課長、八木保健担当課長代理、
西田福祉担当課長代理、金森保健副主幹

4 議題

1. 平成28年度鶴見区運営方針の素案について
2. その他

5 議事

開会 19時00分

○嶋原保健福祉課長 定刻になりましたので、ただ今から鶴見区区政会議保健福祉部会を開会いたします。

私は本日の司会を務めさせていただきます保健福祉課長の嶋原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、萩副区長からご挨拶を申し上げます。

○萩副区長 皆さん、こんばんは。今日は部会が2つ重なっていますので、区長はこども教育部会に行っておりますのでご容赦ください。

もともとの福祉分野というのは、第3部会という部会に属してしまして、その第

3部会というのは保健福祉とこども教育という2つの分野を所管してやってきたのですけれども、この2つとも非常に課題が多くて、なかなか1つの部会で議論するのが難しくなってきましたので、この2つを独立させまして、保健福祉部会とこども教育部会に分けてご議論いただくことになりました。よろしくお願い申し上げます。

今回、初めての部会になりますのでわからないことも多いと思いますけれども、忌憚のないご意見やアイデアなどがありましたらぜひ頂戴しまして、これからの区政運営につなげていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○嶋原保健福祉課長 すみません、この後は座って続けさせていただきます。

それから、佐藤委員はすこし遅れられるようなのでよろしくお願いいたします。

それでは、本日は新たなメンバーによる初めての部会ですので、委員の皆様から簡単に自己紹介をお願いしたいと思っております。

お手元に委員名簿を1枚置かせていただいていると思いますのでご参照ください。

それでは、笹原委員から順番によろしくお願い致します。

○笹原委員 こんにちは。食生活改善推進協議会の笹原と申します。よろしくお願い致します。

○田中（潔）委員 こんにちは。公募でこのたび選ばれました田中潔と申します。今、68歳で、年金生活で無職で毎日やっております。

この部会は行政に丸投げされるというのですか、行政の仕事が多いと思うのですけれども、そういうことについて私も68歳になりましていろいろと老後のことというのですか、いろいろな仕組みのことを勉強させていただきたいと思っております。よろしくお願い致します。

○早野委員 皆さん、こんにちは。私も初めてこういう行政に配属されたのですけれども、私は一応、病院に四十何年勤めて福祉の事業にも参加していろいろとやってきたのですけれども、それで保健福祉というものは何か魅力があるなと思っているのですけれども、私たちの茨田東でもいろいろと取り組みたいことはたくさんあります

けれども、なんせ高齢社会ですごく苦しいのです。皆さんの力も借りていろいろやっていけたらなと思っていますので、よろしくお願いします。

○久木委員　　こんばんは。私、鶴見区地域振興会の久木と申します。先ほど萩副区長が言われたように、子ども、それから高齢者というのは、地域でも大きな2つの柱になっています。当然ながら使われている予算も非常に大きいということで、皆さんの真剣な議論をお願いしたいと思っています。よろしくどうぞ。

○正協委員　　こんばんは。焼野地域活動協議会から来ました正協でございます。

この問題については、実際には、まあ年配ですから、先ほど田中委員が言われたようにいろいろな問題があると思うのですけれども、具体的に、どうかみ砕いてお話ができるかわかりませんが、よろしくお願いしますと思います。

○佐藤委員　　どうも遅くなって申しわけありません。いつもだったらタクシーがその辺にいるのですけれども、何か来ませんで、えらいすみませんでした。

私は区政会議というものを何年かやっておりますけれども、自分の言いたいことを言って、したいことをしていますので、もしかしたら皆さん方に失礼なことを申し上げるかもしれませんが、年寄りの戯言と思って許してください。

今日は遅れてえらいすみませんでした。

○嶋原保健福祉課長　　ありがとうございました。

それでは続きまして、区役所側の出席者を紹介させていただきたいと思います。

○萩副区長　　副区長の萩でございます。よろしくお願いします。

○嶋原保健福祉課長　　改めまして保健福祉課長の嶋原です。よろしくお願いします。

○八木保健担当課長代理　　保健担当課長代理の八木です。今日はちょっとこんな声で申しわけないですが、よろしくお願いします。お世話になります。

○西田福祉担当課長代理　　福祉担当課長代理の西田と申します。よろしくお願いいたします。

○貴志生活支援担当課長　　生活支援担当課長で生活保護を担当しております貴志と

申します。よろしくお願いいたします。

○金森保健副主幹 保健福祉課副主幹の金森です。よろしくお願いいたします。

○嶋原保健福祉課長 それでは続きまして、部会長、副部会長の選出へ移らせていただきたいと思います。

鶴見区区政会議運営要綱におきまして、部会長は区政会議委員の互選により選任することと規定されております。

どなたに部会長をお願いするかについて、ご意見はございませんでしょうか。

○笹原委員 久木委員にお願いできたらよろしいのではないかと思います。いかがでしょう。

○嶋原保健福祉課長 今、久木委員というご意見がございましたが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(拍手)

○嶋原保健福祉課長 異議なしとのことですので、部会長は久木委員にご就任いただくということでよろしくお願いいたしますと思います。

続きまして、副部会長は部会長が指名することとなっておりますが、部会長、副部会長につきましてはどなたがよろしいでしょうか。

○久木部会長 長い間、こうした福祉関係に経験もある早野委員にお願いしたいと思います。早野さん、よろしくお願いいたします。

○嶋原保健福祉課長 部会長より早野委員のご指名がございました。お願いできますでしょうか。

○早野委員 いろいろ教えてもらって全力を尽くしたいと思います。

(拍手)

○嶋原保健福祉課長 ありがとうございます。

それでは、副部会長には早野委員にご就任いただくということで、よろしくお願いいたします。

いたします。

そうしましたら、部会長、副部会長につきましては、前の席に移動をお願いいたします。

それでは、部会長、副部会長から一言ご挨拶をいただきたいと思います。

○久木部会長 最初なのでひとつよろしくをお願いいたします。

座ってさせていただきます。

私より佐藤さんなんかずっと長い間、世界も経験されていますし、また、今日お集まりになっている委員の皆さん、大体、全部知っている方ばかりなので、そういう意味で言うところの部会、しっかり前に進めていきたいなと考えております。

先ほども申しましたけれども、福祉関連予算というのは、非常に区の予算の中でも大きいものがあると思いますので、予算というものは果たして本当に自分たちのためになっているのか、あるいは地域から興していく事業等にこういう予算がとられてもいいのではないかというような意見もあるように聞いております。

そうした意見を拾い上げて区のほうに上げさせていただくということも私たちの責任かなということで、そういう意味で言いますと、この部会、大きな、やはりビジョンを立てて進めていきたいなと思っています。

それでできること、これ、恐らく皆さんとのおつき合いが2年くらいになるかと思えますから、1年目で全ての結果が出るとは思いませんので、2年を目指してステップアップしていくような部会にしたい、そのように考えておりますので、ぜひご協力をお願いいたします。

○嶋原保健福祉課長 副部会長、一言ご挨拶をお願いします。

○早野副部会長 このたび、すみません、何もできないのにこんな役を引き受けさせてもらいました。

茨田東では女性部で、一応、なんやかんやとやっていますけれども、今まで私も福祉のことをいろいろやってきて、ふれんど会でいろいろ福祉の道具とか、そんなもの

をつくってきたのです。それを、お年寄りの動けない人に渡したり、病院で使ったらすごく評判がよくて、でも、そんなふうな介助のあれもいいのではないかなと思うけれど、それは細かいことであって、それよりももっと何か、子どもたちだったら留守家庭のところの勉強会を集会所か何かでやれたらいいのではないか。そうしたら、グレるというか悪いほうへ走る子がいなくなるのではないかなと思ったりするのですけれども、それをどうしたらいいかというのが、また皆さん、何かいいことがあれば話を聞きたいなと思ったりするのです。よろしくをお願いします。

○嶋原保健福祉課長　　ありがとうございました。これからどうぞよろしくお願いたします。

それでは、これより議事進行を部会長にお願いしたいと思います。部会長、よろしくをお願いします。

○久木部会長　　それでは今から、議事進行を進めていきたいと思っております。

まず、本日、全く新しいメンバーで新しい区政会議が始まります。これから、先ほども言いましたようにひとつよろしくお願いたします。

それでは、事務局から議題に入っていただきますように。議題1ですね。

○嶋原保健福祉課長　　そうしましたらご説明をさせていただきたいと思います。

手元にお配りさせてもらっています運営方針に沿って、まず最初に全体的な話と、この部会に関係します経営課題5のところにつきまして説明させてもらいたと思います。

まず、今、言いました資料1の運営方針をご覧ください。

そもそも区運営方針とは何かということですが、区における取組みの方針としまして、毎年策定しているものでございまして、区の目標や担う役割、重点的に取り組む経営課題と、その課題解決のための戦略や具体的取組、つまり、平成28年度に鶴見区役所が何をしようとしているのかを示したものでございます。

まず、区の目標でございますが、「区の魅力『つる魅力』の創造や多様な交流によ

り、新たなつながりが生まれ、区民がお互いに支え合い、誰もが『住んでよかった』と笑顔で言えるまちの実現」を目標といたしております。

次に「区の使命」ですが、すなわち、どのような役割を担うかということですが、「区民の信頼に応え、暮らしを支えること」など4つの項目を使命として挙げさせていただいております。

次に2ページのほう、1枚めくっていただけますでしょうか。

重点的に取り組む主な経営課題として、「魅力あふれるまちづくり」、それから、この部会が関係します「健康で安心して暮らせるまち」など、6つの柱を立てております。それぞれに戦略を設けております。3ページ以降につきましては、経営課題ごとの戦略と、その具体的な取組を記載させてもらっております。

この部会が所管する経営課題5「健康で安心して暮らせるまち」に関しまして、具体的取組を中心にこれから説明させていただきたいと考えております。

この資料の14ページをめくっていただけますでしょうか。

経営課題5「健康で安心して暮らせるまち」について、1つの柱として、まず5-1 住み慣れた地域で安心して暮らせる地域福祉を推進することを戦略として取り組んでまいりまして、この目指す状態、概ね3年から5年を念頭に考えていますが、これは高齢者や障がい者が「暮らしやすくなった」と感じる区民の割合を増やすことと考えております。

次に、中期的な取組みの方向性の戦略としましては、区の地域福祉を着実に進めるため、地域福祉活動に関する広報や啓発を行い、人権を尊重し、みんなで支え合う社会づくりの機運を高めるとともに、平成27年3月に策定した「鶴見区地域保健福祉ビジョン」に基づき、活動の充実が図られるよう支援することとしています。

この「地域保健福祉ビジョン」につきましては、資料のほうも中に入れさせてもらっているのですが、誰もが安心して暮らせるまち、「ともに生きる」いろいろな人が一緒に住めるまちなどの理念を実現するために策定したもので、区政会議やパ

ブリックコメントも実施して策定したものでございます。

この後、具体的取組につきまして、西田課長代理より引き続き説明をさせていただきます。

○西田福祉担当課長代理 保健福祉課福祉担当課長代理の西田でございます。よろしく願いいたします。

それでは、私からは15ページ、戦略5-1 住みなれた地域で安心して暮らせる地域福祉の推進の。

○嶋原保健福祉課長 すみません、この後、ここからパワーポイントも使いながら説明をさせていただきたいと思っております、部会長、副部会長、少しこちらのほうに戻っていただくか、ちょっと後ろを向いていただくかしていただけると。

○西田福祉担当課長代理 スクリーンも使いますけれども、スクリーンに映します資料は全てお手元にもご用意させていただいておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、5-1-1 高齢者・障がい者への理解の啓発等についてでございます。

まず、高齢者・障がい者と地域・団体とのつながり、ふれあいをテーマとした啓発事業の実施でございますが、お手元の資料でいきますと3ページ目という形になります。「鶴見区つながろう！ふれあいフェスタ（案）」と書かれているものをご覧いただけたらと思います。

区内には高齢者や障がい者の団体や個人、また、さまざまな福祉サービス事業所がございます。それぞれがさまざまな活動をしておられますけれども、横のつながりや活動を発表する場、お互いが触れ合える場、知り合える場というものがございませんでした。

そこで、何かできないかと考えまして、ここに記載しております「鶴見区つながろう！ふれあいフェスタ（案）」を今年度、初めて開催することとなりました。日時は平成28年1月30日、場所は鶴見区民センターの大ホール・小ホールを使用するこ

ととなっております。

大ホールでは作品展示や情報コーナー、また、施設で作成いたしましたグッズやお菓子、パンなどの販売を予定しております。また、体験コーナーといたしまして盲導犬との触れ合いや点字体験等を予定しております。

また、小ホールにつきましては、地域で活躍するグループによる舞台発表などを予定いたしております。

何分初めてのことでありますので、手づくり感満載のフェスタになろうかと思っておりますが、ぜひ委員の皆様もご来場いただけましたらと思っております。

平成28年度につきましては、この1月に開催いたしますフェスタの結果検証やふり返りを十分に行い、開催等についての検討をしてまいりたいと考えております。

次に4ページ、下の分を見ていただけますでしょうか

障がい者支援関連の研修会・講習会等の開催でございますが、こちらは今年度開催いたします講演会のチラシでございます。

障がい者を取り巻く現状でございますが、バリアフリー化や受け入れ施設の増加、補助器具等の技術が進んだことなどにより、障がい者の社会進出が積極的になってきております。

しかしながら、課題といたしまして、障がい者に対する理解が十分には進んでいない、また、障がい者の家族や身内からも周りの健常者に障がいというものを理解してほしいとの思いがございます。

それらの思いや理解を深めていただくために、今回は障がいのある人が地域で暮らすために強度高度障がいのある人の支援をテーマに、一般区民を対象として12月2日、午前10時半から鶴見区民センター小ホールにて講演会を開催いたします。

次に5ページです。

高齢者への理解を深めるための講演会等の開催でございますが、こちらも今年度開催いたします講演会のチラシでございます。

高齢者を取り巻く現状ですが、高齢化は年々進んでおります。高齢者の単身世帯の増加、老老介護、認知症による徘徊や孤立死の問題がございます。

課題といたしまして、高齢化が急速に進んだこともあり、高齢者に対する理解や考え方、特に認知症に対する理解が進んでいないという実情がございます。こちらも理解を深めていただくために、「区民で支えよう 認知症」をテーマに一般区民を対象として11月28日午後2時から鶴見区民センター小ホールにて開催いたします。

先ほどの障がい者支援関連の講演会も、高齢者への理解を深める講演会も、実際に区民の皆さんに参加していただけるかどうかがとても重要ということになってまいります。参加していただければ理解がやはり深まりますので、どうすれば区民の皆様へ講演会等へ足を運んでいただけるかということが課題になっており、平成28年度も講演会の開催に向け、また、参加していただくための取組み、広報の検討でありましたり時節を得たテーマの選定等を積極的に検討する必要があると考えております。

次に6ページをご覧ください。

高齢者福祉に関して、職員のスキルアップのための事例検討会についてでございますが、職員のスキルアップの研修はさまざま実施をいたしておりますけれども、例といたしまして「つるりっぷ学校」の事例検討会を記載しております。

これは区役所の保健師・福祉職の職員と地域包括支援センターの専門職員で開催しているのですが、職員を取り巻く現状といたしましては、本当に複雑・深刻なケースが増えております。

虐待等の事例も挙げておりますが、これ以外にも老老介護や生活困窮などの難ケースも見受けられるようになってまいっております。

ちなみに、平成26年度の虐待の通報相談件数は55件、うち、虐待認定をしたケースは32件となっております。

平成28年度の実績ですが、今後もますます進展する高齢化社会等に向け、福祉専門職員のスキルアップのための講習会や事例検討会を、地域包括センター等と協議

検討しながら継続して実施してまいりたいと考えております。

次ページ以降、参考 1 から 6 までございますが、区内には障がい者や高齢者のために、医師会等の専門家や福祉関係の事業所などにより、さまざまな検討を行うための部会や連絡会が設置されております。

参考までに、それぞれの活動内容や組織構成員を掲載いたしております。

また、最後、資料 6、12 ページとなるのですが、こちらには区内に 3 カ所ございます高齢者の生活に関するご相談に対応するための地域包括支援センターのチラシもおつけしております。よろしく願いいたします。

次に 13 ページ、具体的取組 5-1-2 地域福祉力の向上についてでございます。

具体的取組として、住民主体の地域福祉ネットワーク推進事業の推進をかがけております。

まず、「コミュニティソーシャルワーカーを新たに設置」についてですが、地域、区民からは身近な相談窓口がわからない、生活支援を求めるすべがわからない等の声が聞かれ、地域での活動者からは、高齢化による人材不足や適切な支援へつなげるための指示を仰げない等の声が聞かれました。

また、区役所といたしましても、専門的知識や経験が必要とされるケースの増加や、複雑化・深刻化する生活課題に対して公的サービスのみでは対応できなくなってきた等の課題を抱えております。

これらの声の連携や区の課題への解決策として、福祉の専門的人材であるコミュニティソーシャルワーカーを新たに設置してまいりたいと考えております。

次の 14 ページに移りまして、「各地域に地域福祉コーディネーター（つなげ隊）を配置」についてでございますけれども、区内 12 地域に 1 名ずつ配置し、次の 3 点に対応していきたいと考えております。

つなげ隊は各地域会館で地域の相談窓口として、ふれあい員や支援を必要とされている方の相談対応。

あと、2点ほど書いておりますので、ご一読をお願いいたします。

この事業は、平成27年度から地域連携サポーターの配置ということで開始をいたしておりますけれども、今回、地域福祉コーディネーターとして事業の拡充を図ってまいりたいと考えております。

なお、つなげ隊の今年4月から9月までの相談件数は446件、関係機関へつないだ件数も89件となっております。

次に、15ページに移りまして、各地域の福祉活動に対する助成についてですが、これらの写真は各地域で実施されております食事サービスやふれあい喫茶、子育てサロン等の様子でございますが、地域の福祉活動への支援・助成を今後も行ってまいりたいと考えております。

次に、16ページにまいります。

有償ボランティア制度の定着でございますが、この事業は平成26年6月から実施しております。「ちょっと困ったな」「助けてほしいな」の声に地域住民同士が気軽に支え合える総合援助活動として運営をしております。

17ページ以降、こちらは、あいまちの活動風景でございます。家具の運搬、家の掃除、また、庭の手入れ、囲碁の対局のお相手というものがございます。それとあと、会員同士の交流会・研修会等も開催いたしております。

依頼内容といたしましては、やはり多いのは、部屋のそうじや片づけ、通院・院内介助、散歩のつき添い等でございますけれども、買い物の代行やペットの世話、犬の散歩などもございます。

活動実績はここに記載しておりますが、平成27年9月末現在で会員数160名、昨年6月から今年9月までの16カ月で派遣件数553件、派遣時間は893時間となっております。

事業については少しずつ定着・拡大が図られていますが、まだまだ潜在的な需要は存在するものと考えており、平成28年度の取組みとして制度の定着、事業の拡大に

向けた啓発、特に情報を得ることが困難な高齢者の方に向けた周知方法について検討してまいりたいと考えております。

次に、現状と平成28年度への取組みをわかりやすくするために図を用意させていただいております。このままでは見にくいと思いますので、お手元に資料をご用意しております。2枚あると思いますが。

すみません、手書き感満載で申しわけございませんが。

まず、平成27年度の福祉活動の現状をご覧ください。区民の声というものが下に書かれておりますけれども、高齢で1人暮らしが心配、隣のおばあさんの悲鳴が聞こえた、あと近所の道を何も持たずにパジャマで歩いている高齢者が住んでいる等、身の回りやご近所の気になっている事柄、相談したい事柄が年々増加しているというのが現状でございます。

しかしながら、身近な相談窓口がわからない、生活支援を求めるすべがないなどの声が示しておりますように、即、支援に結びつけられるような体制ではございませんでした。

そこで、平成27年度に、この真ん中の人物、袋を持っている人物なのですが、つなげ隊事業を開始いたしました。左側の袋の中に書かれておりますけれども、地域の福祉に関するさまざまな相談に乗り、必要に応じ専門機関につなぐといった個別支援のコーディネート活動や、地域のふれあい員さんとの連絡調整、地域ネットワークづくりの活動等の役割を担っております。

しかしながら、図にお示ししておりますように、右側の袋には地域活動協議会等の福祉事業も担っており、結果として活動記録等の報告を左右両方に提出する、また、異なる事業を受け持つがために、そのときの立場を考える必要に迫られ、つなげ隊の従事者に余分な負荷をかけているという問題がございました。

また、その上に記載しております鶴見区社会福祉協議会の左側には、つなげ隊の地域連携コーディネーターが、右側には有償ボランティア活動のあいまの業務責任者

があります。どちらも区役所からの委託事業なのですけれども、委託事業の性質上、それぞれの連携が図れない、また、左側の地域連携コーディネーターは、つなげ隊との連絡調整を業務としておりますけれども、社会福祉協議会の職員の兼務となっていることから、専任的につなげ隊のサポートや地域へのかかわりができず、区民、ふれあい員、つなげ隊の連携が十分にできていなかった問題点がございました。

次に、平成28年度に向けた取組みといたしまして、住民主体の地域ネットワーク推進事業のイメージ図をご覧ください。もう一枚のほうでございます。

こちらにつきましても、一番下に区民の声がございます。当然、地域の区民の声がなくなるわけではございませんので、高齢で1人暮らしが心配、隣のおばあさんの悲鳴が聞こえた等、身の回りや近隣のことになっている事柄、相談したい事柄は当然のように発生いたします。

しかしながら、福祉の専門職であるコミュニティソーシャルワーカー、CSWと言うのですけれども、を専任で配置することにより、つなげ隊やふれあい員との連携の強化、指示・指導も含めて活動し、また、必要に応じて地域にも積極的にかかわっていくことで、これまでの懸案事項を払拭していくことができると考えております。

また、コミュニティソーシャルワーカーを中心に区役所やさまざまな関係機関との連携の強化も図っていけるものと考えております。

あと、区との複数の委託業務、有償ボランティア事業やつなげ隊事業を整備・統合することにより、効率的で効果的な運用が見込まれます。

次に、事業統合することにあわせ、つなげ隊自身も地域連携サポーターから地域福祉コーディネーターに事業を拡充・格上げすることで、これまで重荷となっていた複数の事業にかかる報告の簡素化や課題整理を図ることができ、また、立ち位置を安定させるといったことにより事業を実施しやすくすることができると考えます。

その結果、区民、ふれあい員、つなげ隊、コミュニティソーシャルワーカーの一連の流れのなかで連携がとれ、地域の声や相談事に対して迅速でスムーズな対応ができ

るようになり、これからの高齢化社会に対応できる地域づくりの基盤になっていくものと考えております。

また、最後になりますが、要援護者見守りネットワーク強化事業、これは大阪市の福祉局が鶴見区社会福祉協議会に業務委託をしております地域の要援護者の見守りを強化する事業なのですが、この事業とも協働することでさらに地域福祉の推進を図っていけるものと考えております。

以上、私からの説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○久木部会長　西田代理、ありがとうございます。

今、議題1で平成28年度の鶴見区の運営方針の素案、経営課題の5について説明があったところであります。

これについてご質問等がいっぱいあるのではないかと思いますけれども、どうぞ。

では、ちょっと私、何点か気づいた点があったのですけれども、質問させていただいていいですか。

まず、来年1月30日にする予定の「鶴見区つながろう！ふれあいフェスタ」なのですけれども、これは地域との連携はどんなふうを考えているのですか。区独自でされるの。それとも地域と連携してやっていこうという考えですか。

○西田福祉担当課長代理　区独自というわけではございません。

先ほどの資料の3ページを見ていただきたいと思います。こちらの下にもございますけれども、「鶴見区つながろう！ふれあいフェスタ 実行委員会」というものを立ち上げておりまして、区役所、あと社会福祉協議会、地域包括支援センター、介護保険事業者連絡会、自立支援協議会、ボランティア連絡会、老人福祉センターと連携して、現在のところは動いておりますけれども、また地域のほうにも参加していただきますようにご依頼をさせていただきたいとは考えております。

○久木部会長　これ、今、各地域活動協議会にふれあい員さんがいますよね。まさにふれあい員さんが今、地域の中で一番そういう状況に直面している方々なのです。

だから本来、ここら辺と連携して、まず、そういう実態を把握して、できたらそういう人たちに参加してもらおうというのが本来ですよ。

また、今、恐らく12連合、ほとんどこの要援護者もここで把握していると思うのです。もう実際に動いている連合については。そうすると、要援護者もここに入っていける。そういう人は仕組みが要るのではないかと、今ちょっと、ふと思ったのですが、そこら辺はどんなものですか。

これは1月からだから、実行委員の中にやはりそうした人を入れておいて、どこかの地域から誰か抜粋して入れておいて、その実行委員の中でそこら辺を一回検討してもらったら地域も入っていきやすいと思うのです。

○西田福祉担当課長代理　　そうしましたら、実行委員会形式をとっておりますので、また実行委員会の中で話をさせていただきます、必要に応じてお選びさせていただきますと思います。

○久木部会長　　これについて佐藤委員、何かありませんか。

○佐藤委員　　非常に素朴な質問ですけれども、今、初めて見たのがつなげ隊というのですか、これは一体どういう。それと、ふれあい員の関係というのか。つなげ隊というのが、今、ちょっと初めて聞いたのでどんなものなのかなど。

○西田福祉担当課長代理　　ふれあい員は、現在でも地域のほうで見守り活動等をしていただいていますボランティアの方々になります。

○佐藤委員　　ボランティアね、はい、はい。

○西田福祉担当課長代理　　つなげ隊につきましては、基本的に、以前ありましたネットワーク推進員さんの役割をしていただくべく、昔はネットワーク推進員さんという制度があったのですけれども、一時期なくなっていた時期がありまして、やはり地域のそういう福祉の部分をきちんと動いていただける方をつくっていかなくてはいけないということで、平成27年度につなげ隊、1日4時間くらいの勤務になるのですけれども、ということで昔のネットワーク推進員さんのかわりをしていただくような

方ということで配置をしてきております。

○佐藤委員 ふれあい員とは違うわけですね。

○西田福祉担当課長代理 とはまた別です。

○佐藤委員 違うわけですね。

○西田福祉担当課長代理 はい。ふれあい員さんが相談をしていただける場所という
ような感じでとらまえていただけたらと思いますけれども。

○佐藤委員 このつなげ隊というのは、どうしたらわかるのですか。僕がつなげ隊
に連絡したいという場合、どこに行ったらいいのですか。

○西田福祉担当課長代理 地域の会館におられますので、そちらに行ってください
ましたら。

○佐藤委員 区役所の。

○西田福祉担当課長代理 いえいえ。

○泉谷係長 榎本では上田さんです。

○西田福祉担当課長代理 各地域の会館に詰めております。

○佐藤委員 会館のほうでね。なるほど。

こうやっっている、こういうような話を聞いていたのですけれども、何か手が回
り過ぎて整理がつかないような状態なのですけれども。

やはり、この地域に対して、あるいは高齢者に対しての何が一体、一番、行政とし
ては、来年度、中心をどこに置くのかということ。いっぱいありますよね。今、ずっ
と説明した中で、このうちの一体どれを中心にするのか。余り総花式にやっていっ
てもできませんよね。だからそういう意味で、区のほうは一体何を中心に、高齢者なら
高齢者でいいですよ、高齢者の何をやったらいいのか。順番と言ったらちょっと具
合が悪いですが、わからないと思いますけれども、中心になる施策というのです
か、それは一体何かということをちょっと教えていただきたいのですが。

ずっと長々と並べられたらさっぱりわからないので、だから何を一体行政はしたい

のか、どれに中心に置くのか、どこに軸足を置くのか、その辺はどうなのですか。

○嶋原保健福祉課長 先ほど、最後のほうに説明させてもらいました、今、持っておられるA3の表のところがありますね、この事業のところというのが、やはりこれから高齢者だけに限らず、障がいをお持ちの方であったり子育て世帯を含めて、地域とのそういう連携であったりとかいろいろと、見守りを含めてしていかなければいけない部分であるのかなと考えております。

特に今回、有償ボランティア事業につきましても、この事業の中で一体として取り組むような形を考えさせてもらっているところでもあります。

○萩副区長 一番の肝はコミュニティソーシャルワーカーなのです。これをつくるというのが肝で、これまでは、今年度もそうなのですけれども、福祉局からの予算でやっているものとか、市民局からやっている補助金であるとか、そういういろいろなところからおりてきて1つにまとまってやっていたのですけれども、それを全て一元化させてしまって、やはり「私は一体、何の立場でお仕事をしているの」という意識が非常に強くて、そうではなくて、コミュニティソーシャルワーカーというものの傘下の中にピラミッドをつくりまして、みんな混乱せずに、まあ言ったら、機嫌よく働いてもらうようなシステムをつくるのがこの来年度の一番の目標なのです。

○久木部会長 今、多分わかりにくいと思うのですけれども、要は、だから、大阪市だんだんお金が少なくなって、簡単に言えばですよ、お金が少なくなってきます。そうすると、やはり毎年毎年、福祉に限らずシーリングがかかって、ちょっとカットされる状況になるのです。そうすると、今、萩副区長が言われたように、部署別に動いていたのでは地域は、お金、使い勝手が悪いですから、それをできるだけ一本化して地域におろしましょうと。それを地域が使いやすいように地域で考えてくださいというのが、今後の基本的なスタンスになって。

ですから、ちょっとこれ話を聞くと総花的に全部になってしまうのですけれども、広く浅く考えましょうということで、最終的に地域がどういうふうを選択していくかと

いうのは、今後、逆に今度、地域で考えていかなければいけないというのは問題かもしれません。

○佐藤委員 例えば高齢者の場合、認知症というものを取り上げてくれていますので、認知症について平成28年度は考えていこうとか、あるいは、僕も老人会ですから、独居の高齢者を今度、中心に考えると。

そんなにあちらこちらできないと思うのです。お金もあるだろうし。だから、何か軸足にして、それをやって、1つの実績というのですか、つくって、平成28年度はこれをやりましたと。そういう形で、何か国会のあれを聞いているみたいで、総花的に、質問されたらここでやっていますよ、これをここでやっていますよ。それぞれ部署があると思うのですけれども、もうちょっと絞るように考えたほうが、区民としてはよくわかるわけです。区のほうはこういう、はっきりいったら、河村イズムはこれを中心にやるのですよという形でやったほうが、私たちはわかる。それならそれに協力しようとか、それは具合が悪いとかなるわけです。

ところが、こうなってくると、どれを一体考えたらいいのかということがありますので、その辺はどうなのですか。する考えはないでしょうね。

○正協委員 いやいや、中身でやっていったらいいからね、それは。ただ、つなげ隊とふれあい員、今まではこれがあいまちとつなげ隊、何か2つありましたね。それが今度は1つに、一本に固めると、こういうことになるわけですね。

○嶋原保健福祉課長 はい、そうですね。

○正協委員 それで、新しくソーシャルワーカーか何か、CSWをつくると。

○嶋原保健福祉課長 はい。

○正協委員 これはまた別の人ですね。

○嶋原保健福祉課長 そうですね、はい。

○正協委員 そうすると、今までは、今おっしゃったように、1日4時間の範囲内でその2つの仕事を1人の人間にやらせていたということになりますね。

全体の予算も議長が言われたように、相当大きな費用が出ていますし、本来から行きますと、福祉活動のこの部分については非常に大事な問題で、行政の重要課題だと私は思うのですけれども、そのお金の配分のときに、今のこのドッキングして1日4時間の問題だとか、そういうことまではいろいろ、また今までと違ったやり方で考えておられるのですか。

○嶋原保健福祉課長 時間の関係につきましても、先ほど課長代理からもありましたけれども、やはり地域活動補助金のほうと、それからつなげ隊と、2つに分かれているところで、やはりいろいろと負担をかけているところもありましたので、そこを1つにすることによって、時間につきましてもつなげ隊というか新しい事業の中でもう少し時間を増やす形にさせてもらって、ここの最初の1枚目に書かせてもらっていました報告を2つに分けないといけないというところなんかも、できるだけ1つにするすることで解消されるであったりとか、その上に、先ほど言っていましたCSWという相談員さんを置くことで、そういう連携も含めて別に置かせてもらうという形で考えています。

○正協委員 別に置くということは、またそれだけ予算がいるということになるわけですか。

○萩副区長 全ての事業を1つにまとめたのですけれども、これは削減のためにまとめたのではなくて、平成28年度は福祉バス事業も廃止といいますか中止してもらうので、その費用もここに投資して1つの大きな福祉施策をやろうとしているのです。

○正協委員 今、見ましたら、これ、去年よりも今度の提案のほうが非常にわかりやすいような形になっています。

それで、とりあえず中身は、今、佐藤さんが言われたように、何に重点を置くかというのはやっていったら、それはそれでいいと思うのですけれども、できれば、例えばいろいろな活動をする場合に、やはり私たちはボランティアで歳がたってあれですけども、そんなに専門的にそればかりできませんから、やはりそれを水準にする

のが今までのネットワーク推進員に、今、うちの連合ではやっているわけですが、この費用を合わせて固定的なお金でずばっと持たせてほしいのです。そうでないと、ほかの税金の関係とかいろいろあって非常に複雑に変わってくるのです。予算としては一緒だろうと思いますので、一括で給料的な形で、それは、その人の体は役所に預けてもいいけれども、こちらに置いておけるんやったら置いていても、どちらでもいいのです。雇用関係はどちらでもいいのですけれども、すかつとした形でお金を出してあげてほしいなど。

○萩副区長　　そうですね。

○正協委員　　そうしないと、今後、税務関係も非常にややこしくなってくるし、今の労災の問題とかいろいろな問題をひっくるめてやっていきますから、ますます複雑になってきます。

○萩副区長　　そうですね。

○正協委員　　その点だけは、できるだけコンパクトにまとめて、信頼してずばっと出すと。チェックの方法はいろいろとあると思いますけれども。

○萩副区長　　まさに、正協委員のおっしゃったことをやろうとしているのです。

○正協委員　　ああ、そうなのね。これだったらやりやすいですね。

○萩副区長　　ええ。全て社会福祉協議会のほうに委託をしますのです、出すところも1カ所だし、受けたほうも報告書は1つでいいので、すごく負担の軽減になると思うのです。

○正協委員　　ありがとうございました。

○久木部会長　　そうしたら、田中委員、今までの。

○田中（潔）委員　　私は、難しいお話でちょっと理解できないところがあったのですが、要するに先ほど質問でお答えがあったように、コミュニティソーシャルワーカー、これが一番肝になるというお話でございましたよね。これは鶴見区で何名くらいの方が、一応予定されているのですか。まだわからないのですか。

○西田福祉担当課長代理 予定としては、今、2名で考えております。

○田中（潔）委員 この2名の方が、要するにつなげ隊、そういうところとふれあい員もそうかもわかりませんが、間接的にそういう人たちをうまくコーディネートしながら手足となってやっていこうということが来年の目標というか方針なのですね。

○西田福祉担当課長代理 そうですね。あと地域の窓口をきちんとわかるような形で確立させると。また、それに向けて広報もしていかなければいけないと思うのですが、今、佐藤委員からいただいたように、つなげ隊というものを知らないというよりは、やはりこれこれからどんどん表に出ていっていただいて、また広報もして理解をしていただくという必要が出てくると思います。

○田中（潔）委員 それと、この2つ、両方を比べまして大きな違いというのは、1枚目の並列になっている表なのですが、地域活動協議会福祉分野の事業というものが、一応、なくなったような形で、要するに地域活動協議会の上へ上がっているわけですね。こういうふうにあるのですね。

○西田福祉担当課長代理 図でいきますとコミュニティソーシャルワーカーの中に入っているかと思えます。

○田中（潔）委員 それは、今、やばな質問なのかもしれませんが、そういう役割を今まで担っていた地域活動協議会の福祉分野、そういう方々はおられたのですよね。

○萩副区長 同一人物なのです。体の半分が地域活動協議会の福祉関係予算から出ている、もう片一方でつなげ隊としての予算になっているのです。だから、ものすごく不安定で複雑な、今、状況になっていまして。

○田中（潔）委員 そうしたら、2人のコミュニティソーシャルワーカーというのは、公務員の方がなされているわけですね。

○西田福祉担当課長代理 いえ、公務員ではありません。

○田中（潔）委員　　そうしたら新しく雇うという感じになるわけですね。

○西田福祉担当課長代理　　そうなりますね。福祉の専門家を委託先が雇うような形になります。

○田中（潔）委員　　それはある程度資格を持った方。

○西田福祉担当課長代理　　その方向で考えています。

○田中（潔）委員　　地域福祉コーディネーター、つなげ隊、ここの方は、今までのつなげ隊がありますよね、従来の。そういう方を横滑りみたいな感じで考えておられるのですか。新たに、もちろんまた雇用をされるとか、そういうことなののでしょうか。

○嶋原保健福祉課長　　基本的には、今なっておられる方に。もちろんその地域の状況によってかわられるケースも、もしかしてあるかもしれませんが、基本的には、今おられる方というふうには考えています。

○田中（潔）委員　　そこが1本になるということですね。こちら側とこちら側と。
わかりました。ありがとうございます。

○久木部会長　　笹原委員、すみません。飛んでしまいましたけれど。

○笹原委員　　先ほどの、私は、「鶴見区つなごろう！ふれあいフェスタ」の実行委員会というのは、やはりつなげ隊の中から出て来てもらって、話し合いを持つということは、やはり大事ではないかなというところなんです。それでないと、地域の声が上がってこないというところ、やはり弊害になってくるかなと思います。

何かこれはすごくすっきりわかります。やはりつなげ隊の大変さというものは、分散するというか、上へつなげていくというこの辺り、それとふれあい員さんの高齢化が進むにしたがって、つなげ隊の大変さというものもすごく出ていると思うのです。だから、やはりこのコミュニティソーシャルワーカーというところへ振れることの意味というのは大きいかなと思います。

○久木部会長　　いいですか。

○笹原委員　　はい。

○久木部会長　　では早野委員。

○早野副部会長　　私もまだちょっとよくわからない。

○久木部会長　　いいですよ。では、またわかったら。

○早野副部会長　　何かみんながしゃべることを探して聞いていたけれど、わからない。

○久木部会長　　これ、先ほども佐藤委員も言われたこととちょっとつながるのですが、けれども、確かにこの素案自体はP D C Aサイクルに従って立案しているのかなと思うのですが、あれは確かP D C Aの頭にリサーチとビジョンがつくのです、R V。だから私、いつも思うのですが、佐藤委員が言われたように何を主体とするのかという、これは多分リサーチをしていないとわからないと思うのです。

それともう一つはビジョンですが、やはり福祉でこういう目的である、鶴見区はこういう目的にしますよという、もっとビジョン整理をやってもらおうと、多分、もっとわかりやすいのかなと思うのです。

だから、そこら辺をもうちょっと整理していただいたほうがわかりやすいように思います。

それとあと、先ほど田中委員が言われていましたので、ではこれ、地域活動協議会とどうなるのだというところです。多分、こういうテーマもあると思うのですが、だから、確かに地域活動協議会は地域を束ねる組織として立ち上がってきたので、例えばこういう書き方をすると、地域活動協議会の中には民生委員も全部入っているわけですね、既に。入っているのですが、これ、別軸でぼんと出すと、民生委員が直接やってしまうと地域活動協議会が共有できなくなりますよね、問題が中で。だから本来、やはり地域活動協議会の中でクリアした問題をこちらに上げてくるとか、それは整理しないといけないのではないですか。この点についてどうでしょうか。

○嶋原保健福祉課長　　確かにこの表をつくるときも、その辺のところというのはありまして、地域活動協議会自体が全てここに書かれている部分に幾つか入っていると

ころもありますので、やはりその辺の連携というものをしていかなければいけない部分かと思っています。

ただ、今回、この表をつくる場所では、名前がはっきりと出たほうがわかりやすいかということも考えてこの形に。どういうところがかかわっていくのかということがわかるかと思うところもありましたので、この形にさせてもらったのですけれども、今ご意見をいただきましたので、今後、説明させてもらうときには、もうすこし整理を行いたいと思います。

○久木部会長　そうですね。地域活動協議会をつくった目的そのものが、地域の中でやはり1本化して、みんなが共有してやっていこうというのが目的で立ち上げたと思うので、できたらそこは整理してもらったほうがいいのかなと。

だから多分、先ほど田中委員が言われたのは、そういうところもあるのではないかと思います。

ほか、何かこれについてありますか。

○田中（潔）委員　私もちょっと蛇足になるのですが、そういうことなのです。やはり地域活動協議会というのは基本的に無償ボランティアでやっていますよね。役所のこの案は、恐らく有償で予算も取ってこられるという、そういう役所的な、私はそういうにおいを感じたものですから、やはり地域でみんなが支え合うと、そういう社会福祉協議会の本来の無償ボランティアとしての近所というのですか、その地域、そういうものをやはり大事にしていかないと、やはり地域力が落ちると思います。

だからみんなで支えるのだと、それもできるだけ費用がかからないやり方で。確かにこうしたらお金を取ってこられるのかもわかりませんが、そしてすっきりすると思うのですけれども、今、久木さんがおっしゃったように、そういう地域の力を活用するというので、もう一度考えて直したほうがいいかなと思うのですけれども。それもプラスアルファとして。

○正協委員　僕はそれとちょっと違うのです。確かに理想的にはそうなのです。地

域の力で地域の人たちと助け合いをしてやるというけれども、ボランティア人口が増えているのか減っているのか私は知りませんが、過去を見てみますと、ボランティアというのはだんだん全体的に広がっていることは広がってきて、それを活用する人間の年齢層で相当小さくなっているのです。そうすると、やはり一部は金も出すと。ボランティアだけで、これ、行政の非常に重要な問題になってくるわけです。政治的な問題にもなってきますやんか、福祉の問題については。だから、金を出すところから出してもらって、ボランティアはできるだけやりたくないと言ったらおかしいけれどもやりたくない。そうだけれども、やらなければいけない分はやりますと。できる範囲内でやりますと。それは根幹の問題になる。ボランティアと云ったら、それは言葉はきれいのですけれども、つなげ隊とか言葉はきれいですが、実際に実行の芽が出てこないのではないかなと。

やはりデータも専門家を雇っていただいたり、いろいろなことでやはりフォローをどんどんしてもらわないと、ボランティアだけに頼ったり地域活動協議会だけに頼っても、多分、指導は余りしないと。特に佐藤さんがおっしゃるように何か重要な問題を全体の中ではなしに何にポイントを絞って、鶴見区は何にポイントを絞って何が大阪市内で一番進んでいっている道だということをぼんと出して、それに向けてやはりやっていくということをしないと、どっちみち、ここの表に書いていますけれども、全体といっても予算、ここに予算を大分使っていますけれども、ほかのところはそんなに使っていないから。

だから、やはり重点施策でいかなければいけないのではないかなと思いますけれども。僕、何かここに書いているように。

○久木部会長　今、正脇委員が言われたこと、確かに一理あるのです。ただ、どちらにしても、もうこれ、5年後、6年後になりますと、団塊の世代が全部70歳になるわけですから、そうするとたちまち鶴見区も40歳、60歳も70歳以上の人はもう40%みたいな数字にはね上がってくるわけです。そうすると、行政だけが支えて

いけるということはありません。だからやはり行政にお願いしたいのは、今のうちに地域がどうやって自立してできるような施策を、それを本当はビジョンとして立てていただきたい。

だから、我々はどう頑張っても7年後、8年後、今の状況では無理ですよということをやはり地域に訴えていく必要はあると思うのです。そうした上で、やはり今の施策というものをやっていかないと、いずれこの問題は行き詰まります。それは日本もそうですけれども、大阪も、僕は行き詰まってくると思う。

だから、せめて鶴見区でやっているのですから、そこら辺のビジョンを打ち出してほしいなと思うのですけれど。

○正脇委員 それはいいのですけれども、ビジョンを打ち出して鶴見区はこれだということを出してもらったら、僕はそれでいいと思う。

○久木部会長 正脇委員が言っているのはよくわかるのです。これ以上、我々に何をしろというみたいな、やはり。

○正脇委員 いやいや、そういうことではなしに、僕は5年先にはこういうことをしていけばいいようになると思うけれども、現状の問題もありますから、今どうするのだということのほうが大切かなと、僕たちは年代がいつているからそう思うだけで、だから、理想と現実の問題がある。

そうだけれども、役所がきちんとしてやってくれるのだったら、役所がリーダーシップをとってやってくれば地域は動く。僕たちが動くから役所がフォローしてくれる、そういうことになっていますよね、現状は。地域活動協議会はそういうことでつくったのだから。

そうだけれども、やはり役所の人、立派な人たちがたくさんいるのだから、やはりリーダーシップをとってやってもらって、その欠陥についてはちょっと僕たちが意見を述べさせていただくというのが、僕はそんな気持ちで聞いていますので、えらい申しわけないのです。

○久木部会長 今日、いろいろな意見がここで出てまいりました。最後、締めくくり。

○嶋原保健福祉課長 少しだけよろしいですか。

この間、今ずっとこの表に沿って話していただいているところなのですが、もちろんこのお金が出ているところも含めて、有償で動いてもらわないといけない人も置いてしていかなければいけない部分かと思っていますし、一方で会長が言ってくれたように、地域のほうでボランティアで動いてもらう方、ここでいうふれあい員さんなどもあるかと思うのですけれども、やはりそこはそこで、そういう方々を発掘するという言葉はちがうかもしれませんが、そういう方がたくさん出てきてもらうような体制をつくっていかなければいけないのかと思っております。その辺も含めて、この事業の中で地域の資源といいますか、そういうところも含めた中でソーシャルワーカーさんがいろいろと動いてもらうとか、先ほど、最後のほうでありましたけれども、確かに市のほうから要援護者の見守りネットワーク強化事業であったり、ほかのところでもすごく絡んでくる事業もあるところでもあります。その辺を含めた中で、この平成28年度につきましてはこういう形で、今、考えさせてもらっています。もちろん先のことというのはビジョンを立てていかなければいけないのかなというのは思っております、それは運営方針のところということでもあるのですけれども、一方で、やはり直近のところではこういう形で少しずつでもまず進めていきたいなというふうに、今、考えているところです。

○萩副区長 理想を申し上げますと、つなげ隊の部分までは本当にボランティアならできれば一番いいと思っています。

ただ、このソーシャルワーカーのほうは専門職ですので、ここはきちんとしたお金を払って指導してもらわないといけないと思っておりますが、まだそこまで一遍にいきませんので、その過渡期としてつなげ隊のほうにもお金をつけて、きちんとした形で回りながら人を育てていくというのが一番いいのかなというように判断をしております。

す。

○久木部会長 もう一点言わせていただきますと、ソーシャルワーカーについては、例えば専門的な技能ももちろんそうですけれども、恐らく地域に入ってやっていくとすると、やはり営業力も要るのです。地域を説得してやはり動かないといけない。そういう営業力もやはりスキルとして持っておいてもらわないといけない。

それとあと、どこからどこに行ったらどういうお金が使えるかとか、そういうワークもしてもらわないといけないとか。だからかなりのスキルを持った人がここに配置していただかないと、やはり難しいと思うのです。

ですから、ぜひそこら辺も考えて進めていったら、これ、もうすぐ、もうやっていくわけですから、ぜひちょっと考えていただきたいなと思います。

また最後に総括で質問をいただくということにしまして、もう一つ議題がありますので進めさせていただいてよろしいですか。

それでは、経営課題5のうちの健康づくりについて、事務局のほうから説明をお願いいたします。

○嶋原保健福祉課長 そうしましたら、私のほうから説明をさせていただきたいと思います。

最初にお配りさせてもらっていましたが、まずは資料の1、こちらの16ページのほうを開けていただいてもよろしいですか。ちょっと飛んで何回も申しわけないです。

健康で安心して暮らせるまちについて、もう一つの柱としてここで挙げさせてもらっています。

5-2の「健康づくりへの支援」をすることを戦略として取り組んでまいりたいと考えております。めざす状態につきましては、区民が健やかで心豊かに生活できる活力あるまちを実現するために、「健康寿命」の延伸をめざすことということで考えております。

次に、中期的な取組みの方向性の戦略としましては、肥満者率改善のために、健康

づくりの2本柱である「栄養・食生活」、それから「運動」に関する知識・情報を提供し、健康づくりが実践できる場をつくる施策を地域団体や関係団体と協力して推進することとして考えております。

すみません、ここからまた飛んで申しわけないですけれども、先ほど見てもらってましたパワーポイントの資料、後ろの分と、それから先ほどの続きの所になるのですけれども、初めに鶴見区民の健康状態についてご説明いたします。グラフのほうをご覧ください。

日常生活動作が自立している期間の平均を示している健康寿命でございます。平成22年の調査では、鶴見区は男女とも市の平均より高い年齢であり、国の平均より低い年齢であります。男の方が77.51歳、女の方が82歳になっております。

肥満者の割合については、平成25年度の大阪市国民健康保険に加入している特定健康診査受診者、これは40歳から74歳の方という形なのですが、女性の方が市平均18%より高い20%となっております。

次に、脂質異常症有病者の割合については、平成25年度の大阪市国民健康保険に加入している、これも同じなのですが、特定健康診査受診者では男女とも市平均より鶴見区は高く、男の方が44.1%、女性が57.6%であります。この脂質異常者症有病者とは、悪玉コレステロールの高い方及び脂質異常症の治療で内服薬を服用している方で、将来、脳血管疾患を初め、生活習慣病の発症リスクが高い方というところでございます。

また、区民の健康づくりへの関心を示したグラフでございます。円グラフのほうを書かせてもらっています。平成26年度区民アンケートより「健康増進のために知りたいこと」という問いで、区民の健康づくりの関心が、「栄養・食生活」が一番高く28.3%、次に「運動」が24.3%になっています。

健康づくりのめざす状態である健康寿命の延伸には、区民の生活習慣病の要因である肥満者を減少していくということが必要であると考えております。

肥満者の減少の方向性といたしましては、健康づくりの2本柱である「栄養・食生活」、それと「運動」に関する知識・情報を提供して、健康づくりが実践できる場をつくる施策を地域団体の方、それから関係団体と協働して取り組んでいきたいと考えております。

そこで、具体的な取組みということなのですが、1つ目は区民自身や家族の健康を見つめ直し、日常生活の中で健康づくりを実践できる機会として医師会、歯科医師会、薬剤師会などの保健衛生団体と、地域団体、すこやかパートナーさんと協働して、隔年開催ではあるのですが健康まつりを開催しております。パワーポイントにもその写真を挙げさせていただいております。

2つ目は、よりよい食生活を身につける機会として、食生活改善推進員協議会の多大なるご協力をいただきながら、また、すこやかパートナーとも協働して食育フェスタを開催します。これは、ちょうどこの週末、先週末に、今年は開催させていただきました。ちょっと写真のほうにつきましては直近のことなので、今回は間に合いませんでしたので、前の年の写真を挙げさせていただいております。

続きまして3つ目は、運動習慣の動機づけとして、幅広い年齢層に効果的なウォーキングの方法を広く啓発するウォーキング教室の開催として取り組んでいます。これらの事業は、参加者のアンケートでは、この3年間、事業の満足度がおおむね90%ほどになっており、参加者の皆さんにも好評をいただいております。また、区の健康課題や地域ニーズに合った健康づくり事業を地域や、ボランティア団体と協働して、健康づくりの意識を高める取組みを行ってまいります。特に悪性腫瘍、がんは、平成23年度の数字では、乳がんの年齢調整死亡率が市内平均の年齢調整死亡率より高い状況から、来年2月29日には区民センターで乳がん予防に関する講演会と、それからマンマモデルを活用した乳がんの自己検診法を行い、乳がんの早期発見に取り組んでまいりたいと考えております。

これらの事業は、内容の充実や集客数の確保に努めてまいりましたが、より一層、

事業効果を上げるために委員の皆様からいろいろなご意見を拝聴したいと考えております。

また、前の区政会議等でもあったのですが、やはりがんの関係でいいますと、直近では北斗さんですね、乳がんの関係のところであって、やはりすごく関心が高くなったというのは病院の方から少し聞かせていただいたところでもありますし、その前では大腸がんの関係でしたら、お亡くなりになりましたけれども俳優の方がなられたというところで、やはりそのときも委員さんのほうから、やはり関心がすごく高くなったというところも意見がありました。そういうことも含めて広報に努めて進めていければと考えておりますので、またご意見をお願いしたいと思います。

○久木部会長 ありがとうございました。

今、説明していただいたところですが、これについてご質問はございますか。

笹原委員の得意分野。何かありませんか。

○笹原委員 ここの食生活改善推進員協議会は本当に自分たちのボランティア、本当、ボランティア予算というか、自分たちで会費制で会費を出した中で運営しているのです。その中で今、随分やりたいことがいっぱいあるのだけれども、高齢化が進んできて区役所に来られない。このことを皆さんに周知していこうと思っても、栄養室で調理をして皆さんに食生活をわかってもらおうと思っても、バスがないから来られない。行きたいけど来られないということがバスがストップしたころからあったので、それで地域へ周知するために、では自分たちが来て来てくださいではなくて、自分たちで出ていこうということで、大阪市の予算を使ってさせていただこうということで各地域に行っているのですけれども、それも10万円であれば5万円はあなたたちのボランティア、自分たちの費用で、それで大阪市が5万円援助しましょうというようになると、自分たちが会費の中からそれを捻出しなければその運営が成り立たないというのが今の実状です。

だから、本当は地域へ出てもっともっとそういう食生活、健康寿命を延伸させるた

めに減塩生活をしましょう、こういう調理で基本を守っていったらこういうようになるからということ、もっともっと外へ向けてやりたいけれども、まず予算がないのです。そこの苦勞というものが1つあるということと、地域へ出たときの施設が全然ない。だから、小学校を利用させてもらっているところもあります。でも、小学校もやはり夏休みとか何とかという限定になって、地域からの本当に必要な人が来られない。やはり福社会館なり会館を利用するための施設というものがやはり充実されていないのかなというところで、今、すごく悩んでいるのですけれども、すごく保健センターでは保健福祉の区の行政のほうが、結構、力をかしてくださって、うまくいっているのですけれども、こと、外に向けてやろうとしたときのネックはやはり地域がすごく大きくあります。

○久木部会長　　今の意見についていかが。

○八木保健担当課長代理　　お金の話だと、多分、補助金の話だと思うのですけれども、一応、大阪市の健康局のほうで補助金、年1回申請を上げていただいてということで、その時期が限られた中で提出していただいて、年間、こういう計画を出していただくということになっておりまして、半分補助という形でさせていただいていると思います。その点、書類を確かにたくさん出さなくてはいけないとか、後から精算方法で細かいことも聞かれての内容ということで、かなり内容的に、ボランティアの方にいろいろとご苦勞をかけているところだと思います。その点は、この話はまたこちらのほうから、健康局にはお話をさせてもらおうと思っておるところでございます。

それで、あと地域での施設的なことであるのですけれども、小学校のほうで、よく給食室などを夏のときに使われるということで、そのときに食推さんなり地域で食育の活動をご協力いただいているところだと思うのですけれども、福社会館の施設についてはそれぞれまちまちな状態ということで、その利用についても非常にご苦勞をかけているところだと思います。その点、今後、こちらでも保健センターの栄養指導室がございますのでご活用していただいて、何らかの形で推進に向けて協力していきたい

と思っております。よろしくお願ひいたします。

○久木部会長　だから、結局これも僕が先ほど言ったことと結構つながってくると思うのですけれども、これ、肥満の改善とかいろいろなことをやっていますよね、健康まつりとか。これなのですけれども、今、地域では毎月1回、あるいは毎週1回とか、食事サービスとか、あるいは日曜日はふれあい喫茶とかやっていますよね。だからある程度、やはりこれも地域と連携していく事業ではないかと思うのですけれども、これは健康まつりとか食育フェスタで地域のそういうことをやっている担当の人が一緒に入っているというケースは今までないのではないですか。

だから、多分、区役所独自の事業にしてしまうと、今言ったように食育をやっている人とかいろいろな人がやはり動きにくくなる。地域の中で問題を共有ができていたらもうちょっと動きやすくなる。

それと、決してお金だけではないと思うのです。お金だけを請求するわけではない。やはり地域も連携していく。地域もやはりある程度、応分の負担をしながらやはりこういう事業をやっていくべきだと思うし。

これ、また正脇さん、どうですか。焼野でもやっているし。

○正脇委員　僕は余り意見はないですけれども。

○久木部会長　食事サービスとかやっていますよね、高齢者の。

○正脇委員　やっています。

○笹原委員　だから、食事サービスというのは、こちらがつくって、言ってみたら言葉は悪いですけれども、与えるという形なのですけれども、ではなくて、自分の力を使って自分たちで調理しながら食べるという、この活力が健康寿命延伸につながっていくというところの健康面というので、ここへ、栄養室まで来てくれて、それと一緒につくろうという、また、この間、親子クッキングでしたけれども、男性料理教室とかいうと、募集を広報でかけてくださったら来られます。来られる人は何らかやはり自分も健康でいたいという、そういう意識の人が来られる。だから、ここまで来ら

れない人で地域へそういう施設があれば、そこでそういうことをしてあげれば。

○久木部会長　　だから、地域連携して地域で共有しておかないとできないのです。

○笹原委員　　だから、たまに行くではなくて、地域のお金とかそんなものではなくて、皆それぞれ地域におられるのだから、その中でやはり女性会に入っていなかったりとか、地域活動に入っていない人が、結構、食推さんの中におられたら、やはりそういう横のつながりとかできますが、そういうものができていないから、なかなかそこみいだせないのですけれども。

○久木部会長　　だから、それを、先ほど八木課長代理に言っていたのは、八木課長代理たちでそういう人たちをもっと共有できるようにやはり地域を支援していかないと、多分わからないのだと思いますよ、それは。わかっているやらないか、それはどうかわからないけれども。

○笹原委員　　そうですね、食生活改善推進員協議会なんて本当、地域に全然周知されていなかったというのが驚いた。

○久木部会長　　だから問題は、僕はそこにあると、1つには。

○早野副部会長　　でも、うちのほうでも1回、食推協で男の人を集めて男の料理というのをやったのですけれども、男の人たちもちょっと話を聞いたのだけれど、流れが1人でやるのではないからわからないと言うのです。やり場が狭いから1人でできないで、あなたは切りなさい、あなたはこれをどうしなさいという。

○久木部会長　　全体がね。

○早野副部会長　　うん。だからわからないというのです。それは話を聞きましたよ。

○久木部会長　　確かにそれは1回ではわからないですものね。

○早野副部会長　　うん。それで自分でやらないからわからないと言って。だから、そういうところをちょっと改善できたらなと思うのだけれども。私も食推協に前は入っていたから手伝いもしたけれども。

○笹原委員　　だから、やるということに対しての健康維持、意識の高まりというの

は、フェスタとかそういうことをすることによって、来てくれたことによって意識を持っていただけるというところの部分があります。

○久木部会長　　だから、広げていくツールとして何を使うかです。直接来てもらって、来てもらった人に広げるのか。あるいは、もうちょっと地域力を使って地域の人に理解してもらって地域のほうで広げてもらうか。

○笹原委員　　やはり今のところは、来た人によってその人がまたそこの地域へ戻って広げていけたらというところの部分しか持っていませんけれども。地域へ全部入るとなると。

○佐藤委員　　行政のほうでこの間、フェスタをしましたね。ああいうところでやったことを自分のところの地域へ持って帰って、それを広げるやり方、これを狙っているからやってやろうと思うのだけれども、そこまでなかなか地域がついて行かない。だから、何でもそうです。例えば、交通のあれをやって、集まるのかといたら100人くらい集まる。それが帰って自分の地域でどれだけそれを今度広げるかです。この広げ方がなかなかできないのです。

○久木部会長　　そうなのです、そうなのです。

○佐藤委員　　聞いたものは聞いた分だけで、100人しか聞いていない。区民は二十何万いる中で100人が聞いても何にもなりませんよね、こんなもの。だから、それをどう広げるか。これが大きな問題だと思うのです。例えば交通の問題にしろ、この食育の問題にしろ、多分何でもそうです。行政のほうは、言えば広がるとってはいないだろうけれども、そのつもりでされる。ところが、持って帰ったその人がどれだけ広げるかという、この広げ方をもう少しみんなで考えないと、せっかくやったことが何にもなりません。

だから、この間から八木課長代理が一生懸命してくださって、いろいろなつくり方を教えてくださって広がったらしいのですけれども、それを今度、自分のところへ持って帰って、それをみんなが、はっきり言ったら僕らも老人会ですから、おばあちゃ

ん連中にどれだけ浸透していくか。あるいは地域のお母さんたちにどれだけ浸透していくか。そこのやり方をもう少し行政と地域が考えないと、やりっ放しです。

○久木部会長　だから1つには、今、言われたように、ある程度どうやったらコレステロールを減らせますかとか、どうやったら減塩できますかというのは、朝のテレビを見ていたらほぼほぼわかるわけです。ただ、それを地域でやるかやらないかは、やはりそれは地域力を使って発信していかないと難しい。だから、やはり今のニーズに合った形でこれもちよっと変えていかなければいけないところではないですか。

○笹原委員　案外、地域が受け入れてくれない部分というものが、やはりそれが周知されていないから。

○佐藤委員　そのためには、地域の連長さんが集めるとか。例えばお母さんたちを集めるとか。

○久木部会長　そうです。だから女性部長あたりに区役所がもっと言ってあげないと動きにくい。

○佐藤委員　ただ言っているだけでは来たりしません。

○久木部会長　そうなのです。

○佐藤委員　だから、その辺は各町会で3人ずつ来いとかいう形をとらないと、今は動きませんよ、全然。

○久木部会長　多分そうだと思います。だから、そこら辺をやはりサポートしてあげないと動きにくいでしょう。

○笹原委員　地域の連長さん、よろしく願いいたします。

○嶋原保健福祉課長　今、いただいたご意見、確かにいろいろ講座をしてやはり地域のほうで広げてもらうということで講座もしていたり、今回の食フェスなんかもそうかなとは思っているのですが、確かに今言われている部分というのは、多分、この間ずっと抱えていたところでも一方ではあるかなと思っていますので、いろいろとまた意見交換とかしながらいい方法を探っていきながら進めていきたいと思っています

ので、今いただいたご意見もそうですし、またこういう方法があったら、またいろいろなご意見を教えていただいて、また区のほうでも考えて進める方法を行っていきたいと思っていますので、またよろしくお願いします。

○久木部会長　それでは、そろそろ時間も近づいてきたのですが、先ほど言っていました全体を通してのご質問とかお聞きしたいところとかありましたら。

○佐藤委員　今、笹原さんがおっしゃったように、行きたいけれども行けないという、この現実です。これを何とかしてくれと行って、この間からバスを出せと、西野さんにはえらいあれですけれども、やかましく言っているのですけれども、例えば榎本からここまで1時間に1台しかない。僕はここへ来るのにバスに乗ってきたら40分待たないといけないんです、7時までに。そういういろいろな交通機関の問題、これは区として考えてほしい、本当に。別に増やしてほしいとかではなしに、とにかく何とか、課長さん、交通局まで行って言ってくれたので感心して僕うれしかったのですけれども、そういうふうにやはり区としてそれぞれ市の中のそういうポジションがありますよね。大体、行政と言ったら縦割りです。縦割りのどこへ行ったらいいか僕たちはわからないから、おたくらだったらよく知っているので、そこへ行って何するというような区全体がまとまってやらないとできないのです、これ。

例えば係の者だけ行って言っても、交通局は動かんですわね、何を言っとるねんと。ところが、区全体がまとまって、例えば、河村区長を中心にしてまとまってやっていただく。そうしたら動くのではないかと思うのですけれども。机上の空論かもしれないけれども。

そういう形を僕はつくってほしい、鶴見区は。何か要求があって、それがあつたらそれをみんなが共通にして、そして河村区長を中心にしてみんなでお願いしに行く。あるいは要請する、要求する。そうでないと、一課長が行って動くような大阪市だったらもっとよくなっていますよ。だから、そういうような、ましてや今の動きの激しい情勢の中では、やはり区自身がこういうふうにして、ああしようという形でまと

まっていことが僕はまず大事だと思います。

ですから全体の。何でもそうなのです。区民が一生懸命言ったって、課長さんが言
って通るようだったら楽なものです。そうではなく、課長さんが行ったって通らない
のはわかっています。だから、みんなで鶴見区全体がこう思っているねんというふ
うにやはりもって行ってほしい。そうしなきゃ議会は通らない。

○萩副区長 鶴見区の代表として担当課長に行ってもらっていますので、これから
も続けていきたいし、場合によっては区長がみずから行ってもらうのもやろうと思っ
ています。ただ、それは市全体の交通施策の中でどうかという話なので、鶴見として
は要望は出しますけれども、独自でやるというのは非常に難しい状況なのはご理解い
ただきたいと思うのです。

○佐藤委員 僕、むちゃくちゃ言っているかもしれませんが、とにかく、や
るからにはそこまで行かないと物は実現しないのです。行政というのは動きません。
議員さんが動いても議員さんを取り込み、それから、いわゆる市の偉い人も取り込ん
で、そうしていかないと動かないのです。議会が予算をつくってくれたら大体いける
のですけれども、そこまでいくようにやはり区全体がまとまらないと。だからその点
は、鶴見区なんかではお互いに各課が、お互い手を握り合っとうまいことやってはる
ので感心してますねんけれども、これをやっていかないと。

僕は大阪市の老人会の会長会に出たりするのですけれども、なかなか老人会の言っ
ていることが通らない。なぜかといったらセクションがあって、言いについてもそこ
ではね返されると。はね返されますというよりも、聞いておきますで終わりですわ。
そういうときにどうしたらええねんと前も議題に出まして、それは区全体が一緒にな
ってせな何もならならへんでとなったのですけれども。それ、一緒になるなんていう
ことはまず難しいです。ですけれども、鶴見区だったらできると思います、区役所の
状態を見ていたら。みんなお互いが力を合わせてやっておられるので。

だからそれをやってほしいのですけれども、ちょっと大きな望みかもしれません。

○久木部会長 佐藤委員の言葉を最後に。

バスのことだけをおっしゃっているのではなくて、何かいろいろな問題があったら鶴見区一丸でやってくれという御趣旨やと思いますので、その長老の意見を最後にして、今日は活発な意見をいただいたのですが、そろそろ時間が来ました。

ここら辺で閉会にしたいと思います。

閉会の前に、萩副区長にお言葉をいただいて。お願いいたします。

○萩副区長 本日は活発なご意見をいただきましてありがとうございます。鶴見区役所としてもこの保健分野というのは重点課題として受けとめていまして、平成28年度、頑張っていこうと思っていますので、引き続きこの区政会議でご意見をいただいでできるだけ実現をしていきたいと思っておりますので、本日はありがとうございました。

○久木部会長 ありがとうございます。

委員の皆さん、本当にありがとうございました。

最後に区役所のほうから何か連絡事項はございませんか。

○嶋原保健福祉課長 次回の区政会議の予定でございますが、12月ごろに全体会を開催し、平成28年度の運営方針素案について、他の部会、所管の課題も含めてご意見を賜りたいと考えております。

日程につきましては、また改めて調整させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

事務連絡につきましては以上でございます。本日はありがとうございました。

○久木部会長 それでは、どうもありがとうございました。

閉会 20時36分